



**Vol.119**  
2025.3



amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

\* 網張の森の生き物たち \*

amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori

## 幹に張りつく“ムツヒダリマキマイマイの稚貝”

散策路にある道標がすっかり隠れてしまうほどの積雪がまだあるものの、春を思わせる穏やかな陽気が続いたある日、森の中でムツヒダリマキマイマイの稚貝に出会いました。雪のある時期にしか歩けないエリアにいたのもあり、幹の太い木を何気なく眺めながら歩いていると、あまり凹凸のないホオノキの幹にポコッと小さなこぶのようなものが見えました。枝や幹にできる病気なのかな？と思いながら触ってみると弾力があり、てっきり硬いこぶだと思い込んでいたので「あれ？何か違う」。まじまじと見ると2cmにも満たない小さなカタツムリが張りついていました。「この時期に？カタツムリが？」頭の中は謎だらけでしたが、すりガラスのように少し中が透けて見える殻が渦巻き状になり、まだ成貝ではなさそうでしたが陸貝の特徴が見られました。殻の渦巻きの始まり部分から螺旋状に辿ると、反時計回りになっているので左巻きと分かります。マイマイと呼ばれる丸みを帯びた饅頭型の貝は右巻きが祖先的ですが、突然変異によって左巻きが生じたようです。左巻きのマイマイは全国的に見ると西日本には少なく、東日本には多いのも特徴だとか。調べるほどに興味は尽きず、これまでの「あ、カタツムリ」だけでそのまま見過ごしていたことを内省した出会いとなりました。

What is  
“Mutsuhidarimakimaimai”?

『東北地方に棲む  
左巻きのカタツムリ』

オナジマイマイ科  
殻径：約 37～43mm  
殻高：約 23～26mm  
分布：東北地方

地上性で成貝の殻表には斜めの成長脈が密にあり火炎彩模様のもが多い。軟体は淡褐色～黒褐色でまだら模様。この種類よりひと回り小さいナンブマイマイという亜種がいる。

(同定協力：日本貝類学会会員 高橋 一成 氏)  
(参考図書：「カタツムリハンドブック」他)

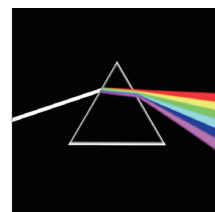
amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomorinoikimonotachi amiharinomori amiharinomori

# 光と色のいろいろ

No. 6

紫外線、赤外線と人間には認識できない光線を取り上げてきましたが、今回は可視光線を詳しく見ていきます。太陽から降り注ぐ白い光は様々な波長が含まれています。それは、ガラス製のプリズムに光を通すと、七色に分散した光が出てくる実験で確認する事ができます。

虹が大気中の水蒸気に太陽光が当たり、屈折率の違いから虹色に見える現象も同様です。



三角プリズムによる光のスペクトル分散

## 自然界の色は、色素と構造色に大きく分けられる



絵画の顔料も色素

リンゴが赤く見えるのは、赤色以外の光を反射し赤色を吸収しているためであり、アントシアンという色素が関係しています。リコピン、カロチノイド、フラボノイドといった色素は、日常的に耳にする名前ではないでしょうか。

色素は単に「色をつける」だけでなく、生活や文化、安全に関わる重要な役割を担っており、古代から現代まで私たちの暮らしに深く根付いています。

一方、構造色は色素ではなく、物質の表面構造によって光が干渉して生じる色です。例えば、一部の甲虫は体の表面に微細な膜や凹凸があり、そこに光が当たると反射や屈折が起こります。この干渉効果によって、緑や青、紫といった金属のような質感の色に見えます。構造色は見る角度によって色が変わるのも特徴です。カラスアゲハやカワセミ等も甲虫とは異なる仕組みで構造色を持つ事で知られています。



アカガネサルハムシ



オオセンチコガネ

これまで、生きものが視覚を獲得し、進化の過程でさまざまな光を巧みに活用してきた事例を紹介してきました。次回からは、人類が「もう一つの眼」として発展させてきた「カメラ」に焦点を当て、ビクターセンターで活用している「センサーカメラ」が捉えた森の生き物たちの姿をご紹介します。

参考図書：入倉 隆『奇想天外な目と光のはなし』



アミハリ・バース  
Vol. 6 2

### アトリ

科名：アトリ科  
全長：約16cm  
生態：冬鳥  
分布：全国

キョキョ  
ジュイー



アトリは集団で行動することから「集鳥（あつとり）」と呼ばれたのが名前の由来です。メスはやや淡い色味をしていますが、オスは頭が黒っぽく翼のオレンジがかった色味が鮮やか！夏羽と冬羽で見た目が変わるため、北帰行の時期には両方のタイプを見かける事があります。シベリアまでの長距離を飛べるように、長く発達した初列風切羽としっかりした尾羽が力強い印象。翼や腰の白い斑は実際より体を小さく見せ、外敵に的をしぼりにくくする効果もあるようです。

参考図書：中村 文『ときめく小鳥図鑑』



おかげさまで開設 20 周年を迎えました！

## スタッフの目から見た網張ビジターセンターの20年

大堀 拓（元網張ビジターセンター主任解説員）

### 第六話 「変わるもの、変わらないもの」

網張ビジターセンターを取り囲む「網張の森」。1956（昭和31）年に国立公園になって以来、人の手が入らず何も変わっていないように思えるこの森も、注意深く観察していると少しずつ姿を変えていることに気づきます。圧倒的な存在感を示していた樹齢何百年ものブナやトチの巨木が病虫害や台風で傷つき、寿命が尽きて倒れ、その脇で頼りなかった実生がぐんぐん成長する世代交代が起きています。希少な野生ランが姿を見せなくなったと思ったら外来のオオハングソンソウが侵入してきたり、常連だったニホンカモシカに替わってホンシュウジカやイノシシの姿が頻繁に赤外線カメラに記録されるようになったり・・・自然とは生き物たちがその営みの中で不断に変化しながら生態系全体を後世に伝えていくものなのです。この自然のダイナミズムに比べると網張ビジターセンターの20年は、ほんの僅かな時間経過にすぎません。それでも内装の改修、展示と行事内容の変化、スタッフの交代など発足当時の姿のままではありません。国の政策として「訪日外国人」に満足してもらえる国立公園、ビジターセンターづくりを目指していることもあって、以前の古民家風のたたずまいの中で年配の温泉客がゆったりと過ごしていた雰囲気は薄れました。館内を隙間なく埋めていた手作り展示も大分少なくなった気がします。しかし、野鳥にとって「止まり木」が必要であるように自然公園を訪れる人たちが気軽に立ち寄ることができる場所としてのビジターセンターの役割は変わっていません。それに加え網張の森に棲息するコウモリやモモンガ、野鳥や蝶類など生き物たちの生態を調べる人達の活動拠点としての重要性は高まっています。



「岩手山周辺の自然」を学ぶ地元の小学生

最近ビジターセンターに立ち寄った際にスタッフと話す機会がありました。「ビジターセンターを訪ねてく

れた人や行事に参加してくれた人からは満足の声を聞いています。けれども、本当にこういう場を必要としているのは実際に来ることが出来ない人達ではないでしょうか？」という彼らの問いに対して言葉に詰まってしまいました。国立公園とビジターセンターの存在をもっと多くの人に知って欲しいと私も思います。実際、今は大量のマスコミ宣伝とSNS情報によって観光地やテーマパークへ大勢の人が押し寄せる時代です。その反面、いくつかの世界遺産地域で見られるように景観自体が一過性の大量消費の対象にされ、ブームが過ぎると忘れ去られていく現実が一方で在ります。

網張ビジターセンターの年間来館者数は約2万人、これは決して大きな数字とは言えませんが、毎年ほぼ安定しています。網張ビジターセンターは、開設してから20年間「自然を好きになってもらう小さな種」をずっと蒔き続けてきました。訪れてくれた人は、この「小さな種」を育ててくれる人であり、いつか心の中で芽を出して大きな木に育っていつてくれるでしょう。私自身、小学生の時に地元のビジターセンターに通い、そこで「巨木の年輪」や「昆虫



「国立公園で楽しむ親子の自然体験」

標本」や「動物の剥製」などと過ごした時間の断片的な記憶が今でも自然と関わる活動をする土台になっているような気がします。

網張の森の20年生のブナといえば、背の高いチシマザサの藪をやっと抜け出しハウチワカエデと背比べをしているヤンチャ盛りの若木です。同じ歳の網張ビジターセンターも、これから様々な試練を受けながらしっかりした年輪を重ねていくことでしょう。君たちが大きくなったらまた訪ねておいで。



### 網張の森 定点観察④

ビジターセンターでは、センター北側の法面に積雪計を設置しています。1月～3月中旬までの平均積雪深は86cm、最大積雪深は120cmでした。森の奥のマザーツリー広場では最大2mを観測しました。



定点観察の「トチノキ」

定点観察の「ブナ」

湯ノ沢橋 撮影：1/28

冬季には欄干を超えるほどの雪が積もります。この日は僅かに欄干が見えますが、2月に入ると完全に雪に覆われてしまいました。積雪量によって目線が変わるので観察対象も日によって変わってきます。数日前に見たものが、30cm以上高さが変わって見えることもあります。

#### ブナ（ブナ科）



12/5 雪が降ったり止んだりの一日。綿帽子雪を被った殻斗がリスミカルに見えた。



1/24 枝先にある小さな冬芽の内部には、葉が丁寧に折りたたまれて収められている。その繊細な枝に感心する。



2/28 冬芽は厳しい冬を過ごす為に樹種ごとの対策がある。ブナはうろこ状の芽鱗を多数重ねて身を守るようだ。



3/7 葉の裏側に何者かの食痕を見つけた。右下から徐々に幅広くなり成長の跡がうかがえる。黒い糞も見られた。

#### トチノキ（ムクロジ科）



12/20 ツヤツヤした冬芽。水飴状の樹脂を分泌し寒さや乾燥、虫たちから身を守るようだ。



1/24 中央の葉痕から右側は一年枝、左側は二年枝。一年枝は毛があり色も明るい。



2/28 葉が落ちたあとの葉痕は樹種によって個性があり顔の顔に見えることがある。これは冠を被った王子様？



3/7 冬芽に何かの成虫と卵を2つ見つけた。成虫は冬芽の表面のベタベタに捕まっていたようだ。

(画像提供：岩手山地区パークボランティア)

### 2/1「網張の森で イグルーを作ろう！」



イグルーは圧雪ブロックを使って作る“かまくら”のようなものです。雪を踏み固め、スノーソーで雪を切り出してブロックを取り出します。ブロックの形を整えつつ傾斜をつけて積み上げ、入口を掘るなどの工程を経て、最終的に仕上げを行い完成となります。3班に分かれて制作し、それぞれ立派なイグルーが完成しました。「サラサラ雪でも踏み固めるとブロックができることに驚いた」「イグルーの中は温かく静かだ」参加者感想より。総勢 18 名

### 3/9「網張の森大木巡り」 (スノーシューハイキング)



園路から外れて自由に歩くことができるのは積雪期ならではの楽しみです。今回は森の奥に佇むダケカンバ、シナノキ、ブナの大木を巡り、人間とは異なる時間の流れの中で成長する樹木の世界に触れることができました。途中で沢を越える場面もあり、参加者からは「アドベンチャーだった」という感想も寄せられました。最後に訪れた「シン・マザーツリー」は幹回りが 402 cm であることが測定され、大木を見上げた参加者から驚きの声が上がりました。総勢 28 名

### -ミニプラス- 2/11・3/20「モモンガ調査体験」



モモンガの生息痕は以前から網張の森や網張温泉スキー場の林間で確認されています。今回初めて網張の森で調査体験行事を実施しました。スギの木の下で花芽や葉芽を食べた痕やフンを探し、営巣場所や巣材について説明を受けました。3/20の行事では念願だったモモンガに出会うことができました。延べ 38 名

### 1/29・2/19 ウェスタルクラブ 「網張の森雪上ハイキング」



普段から様々なスポーツを楽しんでいる盛岡市のウェスタルクラブの皆さん。青空のもと、野鳥の声に耳を傾けたり、動物の足跡や木々の冬芽を観察しながら楽しく歩きました。延べ 17 名

### インフォメーション

#### 4/6『根開きのブナの森で春をさがそう』

9:30~13:30 網張ビジターセンター集合

定員: 15 名 ※事前要予約

参加料: 大人 800 円 小学生以下 400 円

(スノーシューレンタル別途 200 円)

#### 5/11『鞍掛山麓 花愛でるハイキング』

9:30~14:30 たきざわ自然情報センター集合

講師: 藤澤 英俊 氏(岩手植物の会)

定員: 15 名 ※要事前予約

参加料: 大人 800 円 小学生以下 400 円

共催: 滝沢市・滝沢市山岳協会・

(一社) 滝沢市観光物産協会

#### 毎週土日開催『ミニ企画行事』

10:00~11:00 網張ビジターセンター集合

内容: 「森林浴散歩」や「生きもの探検隊」等、

網張の自然とふれあう行事

(毎月 HP・FB に掲載)

定員: 各 7 名 ※要事前予約

参加料: 一人 400 円



### “網張の森のチョウ類モニタリング調査結果”を 「チョウ類の保全を考える集い」にて発表

チョウ類は自然環境の指標として優れており、チョウを調べることで、自然環境の変化を知ることができます。2023 年に日本チョウ類保全協会と共催で「モニタリング調査」行事を開催したことを機に、ビジターセンターでは継続的に調査を行っています。2023 年は 28 種、2024 年は 35 種のチョウが観察されました。2 月 8 日に開催された「チョウ類の保全を考える集い」では、活動内容と調査結果を発表しました。



### ◆ 現在開催中のビジターセンター企画展 ◆ 3月1日(土)~4月30日(水)

#### 広野 孝男 絵画展「野山の花」ースケッチ原画展ー



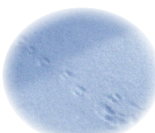
網張ビジターセンターでの「展示」は 4 回目となります。今回は「野山の花」ースケッチ原画展示ーです。山のスケッチを始めてから、かれこれ 50 年過ぎて、大小のスケッチブックは 150 冊ほどになります。山が主ですが、その中に花のスケッチもあります。今回はその中からいくつか選んで、そのまま飾ってみました。坂本直行さんの言葉、「数多く描けば良いのだ。下手な方が面白い味が出る」を励みに描いてきました。飾ったスケッチを見ていただき、「これぐらいなら描ける」と思ってもらえれば、うれしいです。

- 出展者の言葉(一部抜粋)より -

### モモンガのつぶやき

春を待つ生きものの、声にならない声が溢れている。例えば、早くに目覚めてしまったカメムシ。食べ物を求め歩いたアカネズミの小さな足跡。実がほとんど残っていない、ナナカマドの梢に残された 1 羽のツグミ。

じっと春を待つものの声はやがて、雪どけ水にとけていく。(K.H)



### 十和田八幡平国立公園 網張ビジターセンター

来館者数 ◆ 1 月 838 人 ◆ 2 月 1,046 人

朝 9 時のビジターセンター平均気温 ◆ 1 月 -7.2℃ ◆ 2 月 -7.8℃

### 発行 網張ビジターセンター運営協議会

〒020-0585 岩手県岩手郡雫石町長山小松倉 1-2 (網張温泉)

TEL 019-693-3777 FAX 019-693-3778

URL <http://amihari17.ec-net.jp>

E-mail [amihari@vanilla.ocn.ne.jp](mailto:amihari@vanilla.ocn.ne.jp)

開館 冬期 (11 月から 3 月末まで) 9 時~17 時 毎週火曜日休館